

nikkor club

264
2021 SPRING

nikkor
club

特集
発見！
身近な春景色



CONTENTS



表紙写真 深澤 武

北海道の春は遅く、梅や桜、新緑が同時にやってくる。5月中旬、洞爺湖畔の梅が満開となり、残雪を頂いた羊蹄山が雨上がりの空にくっきりと浮かび上がった。まだ朝晩はずいぶん冷え込むが、日中は爽やかな空気が心地よい。
Z 7・NIKKOR Z 24-70mm f/4 S・f/11・1/125秒・+0.3補正・ISO200・WB5000K

002 新しい生活様式に対応した運営を目指します -2021年度の活動について-

特集

008 発見！身近な春景色

石田美菜子／酒井梨恵／竹下光士

コンテスト

- 030 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：大西みつぐ／小林紀晴
- 042 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：佐藤倫子
- 050 ネイチャー・フォトサロン
選評：三好和義
- 058 チャレンジ・フォトサロン
選評：ハナブサ・リュウ
- 063 総評
- 064 会報フォトコンテスト年度賞得点表
- 066 予選通過者一覧

連載

- 表2 光の田園から 春
戻ってきた風景 今森光彦
- 020 顧問のお仕事 第4回
写真と言葉のコラボレーション ハナブサ・リュウ
- 024 アベっちのZの秘密 その7
あこがれの大口径レンズ
NIKKOR Z 50mm f/1.2 S 登場 阿部秀之
- 026 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 vol.4
エプサイトセミナーに参加しよう！
- 029 Let's Go Nikon College！ 第7回
ニコンカレッジ「オンライン講座」拡大中！

作品

- 004 鳥と根付(仮題) 高円宮妃殿下
- 006 フクシマ無窮 -時は止まりて、流れる- 渡辺幹夫
- 016 creative snap 佐藤倫子
- 表4 三好和義×Z 7

製品情報

- 022 PRODUCT REVIEW VOL.14
NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VR 上田晃司
- 028 おすすめアクセサリを探せ！特別編
ニコンダイレクトオリジナルグッズ
特別割引販売のご案内

インフォメーション

- 068 NCニュース
- 070 第45回 伊奈信男賞受賞作品
甲斐啓二郎「骨の髄／Down to the Bone」
- 072 第22回 三木淳賞受賞作品
飯沼珠実「JAPAN IN DER DDR -
東ドイツにみつけた三軒の日本の家」
- 074 第26回 酒田市土門拳文化賞で
ニッコールクラブ会員4名が受賞の快挙
- 075 写真展スケジュール／支部だより
- 表3 楽しく学べる！写真教室 Nikon College

イベント

- 076 イベント年間スケジュール／イベント案内
- 079 撮影ツアー案内

巻末

撮影ツアー申込書
ニコンダイレクトFAXご注文票
会報265号フォトコンテスト応募規定



nikkor
club

都庁前広場で大きなプランターに咲くマーガレットを発見。手前を大きくボかし、柔らかな雰囲気を出しました。中望遠の画角で適度なボケ感とともに花をまとめることができました。

Z6・NIKKOR Z 24-70mm f/4 S・絞り優先オート (f/5.6・1/400秒・+0.3補正)・ISO400・WBオート (酒井梨恵)

●プロフィール



竹下光士

たけした・みつし 1965年、京都市出身。武蔵野美術大学油絵学科卒業。2016年より「GEOSCAPE」を活動タイトルに掲げ、世界中の地形を撮影中。2020年に写真集&ガイド「GEOSCAPE JAPAN」(山と溪谷社刊)を出版。日本自然科学写真協会会員。



酒井梨恵

さかい・りえ 1979年、東京都出身。写真家・竹内敏信氏の事務所を経て、2009年よりフリーランスとして活動中。「神田川～川と周辺に暮らす人々の営み～」を撮り続けている。ニコンカレッジ講師。公益財団法人日本写真家協会会員。



石田美菜子

いしだ・みなこ 東京都出身、日本大学芸術学部写真学科卒業。三木淳、塚原琢哉両氏に師事。広告写真のほか「毎日が写真日和」をテーマにした日常の風景、職人の手仕事、信仰などをテーマに撮影。公益社団法人日本広告写真家協会正会員。財務省関税等不服審査会委員。

新型コロナウイルス感染症が流行しはじめて、一年が経過しました。昨年の春は緊急事態宣言とも重なり、桜を見ないまま過ごした方も多かったのではないのでしょうか。気持ちが落ち着かないまま季節が過ぎ、またコロナ禍の春が巡ってきましたが、今年こそは写真を目いっぱい楽しみたいものです。本特集では、身近な場所で撮影を楽しんでいたため、3人の写真家に「自然風景」、「スナップ」、「おうち写真」というそれぞれの視点で、「春」を作品に仕上げるアイデアを伺いました。明るく暖かい光の下、前向きな気持ちで春を迎えましょう！

特集

身近な春景色

発見！



月島の路地で出会ったネコ。近づくと逃げるので、少し離れて焦点距離80ミリ相当でねらいました。偶然にもピンクの花が咲いていたことで、春っぽさが表現できたと思います。

D5200・AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR・絞り優先オート (f/6.3・1/50秒)・ISO400・WB晴天 (酒井梨恵)

春の花を見つけてよう

写真・解説 II 竹下光士

2020年の春より

昨年の春は、身近なものしか撮ることが許されなかった特別な春でした。しかし写真が撮れないわけではなく、私は日課となった散歩に50ミリの単焦点レンズを付けて、気持ちの赴くままにシャッターを切っていました。例年は桜の名所を訪れているため、今まで見ることの少なかった日常空間の春も悪くはないと想いました。ただ、遠出の撮影とは違った工夫も必要でした。

ひとつは、気持ちを前のめりにさせないことです。「写真作品にしよう」と強く思いすぎると、風景の粗ばかりが目について、シャッターを押せなくなりそうです。そういう意味では、単焦点レンズ一本という選択は正解でした。撮れない距離の被写体は、最初から諦めるくらいの「やる気」でちょうどよいのです。

そして、絞りは開放F値以外使わないこと。ボケを利用するためではなく、関心を一点に集中するためです。手前から奥までピントが必要な視点は、見慣れた日常風景を撮るには不向きでした。些細なものに目を向け、心を通わすことが重要なのです。

もう少し望遠で撮りたいな、と思いつつ「ご近所だからいいか」と気楽にシャッターを押した一枚。家で画像を確認すると、広すぎると思った田んぼが、いつもと違う春を過ごす私の気持ちを表していました。

D850・AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G・絞り優先オート (f/1.4・1/400秒)・+0.7補正)・ISO64・WB晴天



日常の景色からは、些細な変化をとらえることができます。ここに緑があることには気づいていましたが、4日ぶりに通ると、側溝の格子を覆わんばかりに花が咲いていました。

D850・AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G・絞り優先オート (f/1.4・1/3200秒)・-0.3補正)・ISO200・WB晴天



手厚く育てるイメージがあるので、最初はバラだと気が付きませんでした。育つ環境によってこんなにも野趣溢れる印象になるのだなと感心。日常は思ったよりも意外性に富んでいます。

D850・AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G・絞り優先オート (f/1.4・1/2000秒)・ISO64・WB晴天





nikkor
club

絞りは開放にし、近距離の花弁がボケて大きく見えるようにしました。遠征先では次々に撮りたいものがあるので、なかなか風を待つ余裕はありません。しかし、近場ならじっくりと桜吹雪を待つことができます。

D850・AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR・絞り優先オート (f/2.8・1/500秒・-0.7補正)・ISO100・WB晴天

場所に頼らない撮り方

わざわざ遠出をしてまで撮影しに行く場所は、有名な撮影ポイントだったり、SNSで広まった絶景地だったり、もともと自然が自前で整えてくれた環境であることが多いと思います。ところが身近な場所で撮るといことは、この恩恵にあずかることができます。場所に対する新鮮な感動もありません。

ただ、自然の営みが見せる美しさは、遠くても、近くても同じです。むしろその変化を観察しやすいという点では、近い場所のほうが有利とさえ言えます。あとはそれをどう写真にするか、です。絶景を撮るときのような切り口では難しい。映画監督のように、素材を生かす演出や見せ方を考えてみましょう。

ご近所撮影の楽しさや難しさはこの一点にあるのではないのでしょうか。ここでは桜の散花を事例にしましたが、ほかにも散る花びらを流し撮りで止めてみたり、超望遠で花びら一枚をねらったりと、アイデアを出して気軽に試してみましよう。

コラム

風景にも時代を写し込んで

2011年の震災後もそうでしたが、明らかに自分のなかの自然観が変化しました。プロとして商品的に自然を撮る場合はそのような気配はあまり見せませんが、一人の作家として撮る場合は、震災前と同じでは済まされなと思っています。今回のコロナ禍も同じで、日常と遠征の違い、距離と撮影心理の関係などについて考えさせられました。報道写真はそれらを直接的にテーマにできますが、風景写真を撮る私たちも自分なりに時代を反映させていくべきなのだろうと思います。今を写してこそ写真なのですから。



葉桜の色合いがきれいだなあ、と思いました。しかしピントはそれに合わせるより、前ボケにした方がイメージに近いと判断。背景は駐車場のアスファルトに散った花びらです。

D850・AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR・絞り優先オート (f/9・1/125秒・+1補正)・ISO800・WB晴天



(上) 例年より少し遅い満開を楽しむ人びと。春の陽気に誘われるかのように、次々と集まってきました。ズームレンズの広角域で、桜のサイズ感と、人とのバランスを意識しています。

D7100・AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR・絞り優先オート (f/5.6・1/160 秒・+1.3 補正)・ISO100・WB晴天

(下) 着物の女性を見かけ、思わず声を掛けました。春らしい色の着物と、桜のピンク色がうまくマッチし、爽やかな青空、鳥居の赤色など華やかな色彩を意識して構図を決めました。

D7100・AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR・絞り優先オート (f/5・1/400 秒・+0.7 補正)・ISO100・WB晴天



春の街と人をスナップ

さまざまな花が咲き、暖かい気候に心躍る春。サクラの下に集まる人びとの光景や、着物を着て歩く人など、春らしい雰囲気、人物を入れ込んだスナップを撮ってみました。昨今の状況を鑑みると、外で気軽に声をかけて撮影……というのは難しいかもしれません。そこで、まずは家族など身近な人をモデルにしてみよう。

撮影時は、遠近感や圧縮効果など、レ

春の陽気を感じて

写真・解説 酒井梨恵

レンズの持つ特徴を考えた「レンズワーク」を心がけます。200ミリや300ミリなどの望遠レンズで切り取るよりは、標準域の焦点距離がベストです。被写体との適度な距離感が見えることで、「街と人」を演出することができます。また、急いでシャッターを切ることだけがスナップではありません。じっくりとフレーミングを考え、人物のサイズ感や、周辺の状態をどの程度配置するかなどを意識してみるのもいいでしょう。

道端の春を見つけよう

爽やかな青空や、色とりどりの花、晴れの日の柔らかい光は、写真においても春先の陽気を感じさせてくれます。季節の変化を街中スナップに取り入れるため、軒先や路地に咲く花や花壇、川沿いや神社仏閣、学校周辺や公園を訪れて、春の花の開花をねらってみると雰囲気が高まります。特に4月は新学期を迎える学生

たちや、ランドセル姿の子どもたちなど、服装だけでも「春」という季節をイメージした作品をねらえるでしょう。

身の回りで見つけられる「季節の変化」をよく観察しておくことが大切です。スナップを撮る上で、常に心掛けておきたい被写体探しのテクニクでもあります。

木漏れ日の効果

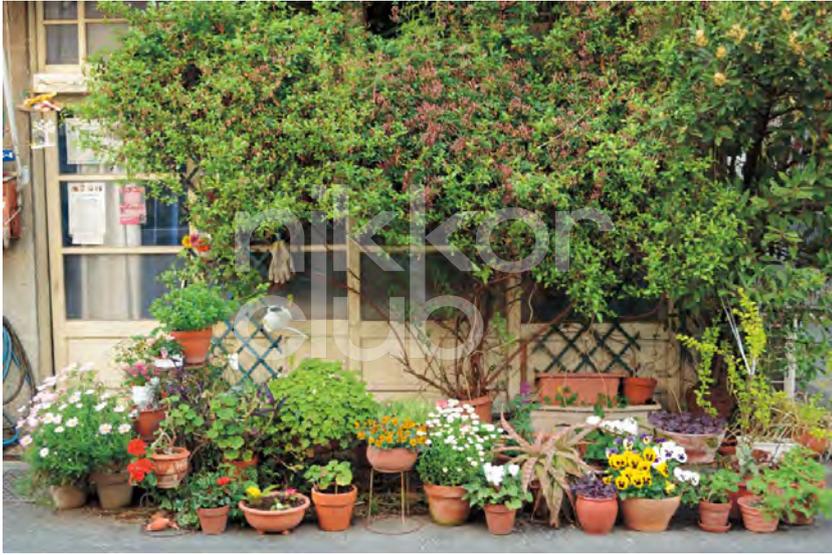
写真撮影で最も気を遣う「ライティン

グ」の要素ですが、屋外では木漏れ日を使うと、柔らかく温かみのある印象を作品に与えてくれます。

しかし木漏れ日と一言で言っても、時間帯や天候によってその様子は大きく変化します。極端に影が強調されるとドラマチックになりすぎてしまいがち。かといって明るすぎると、ハレーションだけが目立ってしまいます。露出の調整にシビアな光景ですが、撮影のポイントは「柔

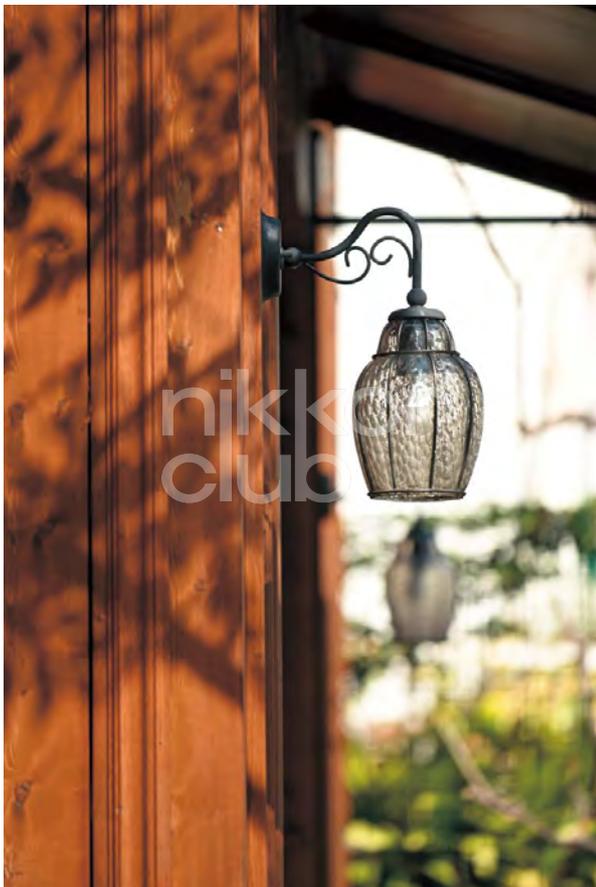
らかさ」です。影の部分が濃くなりすぎず、ハイライトが白トビしない程度の明るさで撮りましょう。

ねらい目は、午前中、太陽の低い位置から差す柔らかい斜光です。春らしさを演出する上でも、建物の隙間から差し込む直線的な光ではなく、街路樹などから降り注いだ光を見つけます。地面に落ちる光、壁に映りこむ光などを探してみま



家先に並べられた鉢植えに、春らしい小さな花。鉢植えを主役にクローズアップしてもよかったですが、「路地裏で見かけたワンシーン」を意識してフレーミングしました。

D5200・AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR・絞り優先オート (f/6.3・1/30秒・+0.3補正)・ISO400・WB晴天



店先のおしゃれなランプを主役に、奥に見えるランプが重ならないよう調整して撮影。木の壁や画面奥のボケに柔らかい光を感じます。Z 6・AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR+マウントアダプター FTZ・絞り優先オート (f/4・1/1600秒・+1.3補正)・ISO400・WB晴天

コラム 得意な焦点距離を見極めよう

フットワークのよい撮影のためには軽い機材のほうが楽です。特にZシリーズは、小型軽量で携帯性がよいのでおすすめ。私も最近Z 6に標準域の単焦点レンズ、もしくは標準ズーム、望遠ズームレンズのどちらかを組み合わせで撮影しています。自分の得意な焦点距離を見極めて、持ち歩く機材をスマートにすることも、シャッターチャンスをとらえる一つの方法です。

家でも春を楽しもう

写真・解説 | 石田美菜子

柔らかな光をキャッチ

この一年で、「おうち時間」が増えた方も多いと思います。いつもは外で過ごす時間帯の我が家を見渡すと思わぬ発見があるかもしれません。自室は好きなものに囲まれた、あなただけのフォトスタジオとも言えます。これからの季節は、レースのカーテン越しに、昼下がりの優しい光が広がっているはず。この光を生かして写真を撮ってみましょう。

まずは、質感や色のトーンを意識して、被写体・背景を選びます。レフ板はコピー用紙や、家にある白色のタオルでも代用できます。

生活感の溢れる物がどこを向いても写ってしまう時は、ボケ味のきれいなレンズを使うと解決できます。小さな物の背景であれば、色のトーンを合わせてぼかすといいでしょう。色が雑多でまとまらなければ、モノクロームにするとスッキリと主題を目立たせることができます。



手づくり金平糖の淡い色合いは、春にピッタリ。不揃いな形をマイクロレンズで強調し、クリエイティブピクチャーコントロールで軽やかなイメージに仕上げました。パステルトーンの背景や、ワイングラスもねらい通りの色合いに。

Z 6・AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED+マウントアダプター FTZ・絞り優先オート (f/3.3・1/400秒・+0.7補正)・ISO100・WB自然光オート・ピクチャーコントロール：モーニング(適用度60)

芝刈り前の庭で摘んだシロツメクサをグラスへ無造作に突っ込んで。部屋全体が春めいた雰囲気になりました！背景は絞り開放で柔らかくぼかしています。

Z 6・AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G+マウントアダプター FTZ・絞り優先オート (f/1.8・1/100秒)・ISO800・WBオート2・ピクチャーコントロール：ポートレート





いつもの路地裏を、いつもは通らない時間に散歩。突然、子どもたちが小さな自転車を飛ばして、横道へ消えていきました。夕刻の光を印象的にするため露出はマイナスに。Zシリーズはフォーカスリングに露出補正を割り当てられるので、瞬時に対応できました。

Z 6・NIKKOR Z 24-70mm f/4 S・絞り優先オート (f/7.1・1/250秒・-1.7補正)・ISO100・WB自然光オート・ピクチャーコントロール：スタンダード

自分だけの春色を探す

リモートワークの息抜きに、カメラを持ち出し、散歩をルーティンにされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。身近すぎる景色をどのようにとらえたいかわからないときは、いつもの散歩時間を変えてみたり、少し回り道をしてみましょう。朝晩は通勤する人びとが行き交う道も、昼間は静かで、印象的な光が差し込むかもしれません。深呼吸しながら見上げた空ですら、さまざまな表情を浮かべて

います。ホワイトバランスで好みの色に調整し、イメージづくりすることも一案です。見慣れた被写体をもう一歩、自分なりの表現に引き寄せるため、露出補正を駆使しましょう。淡い色合いの被写体はプラス補正で明るく仕上げ、春らしさを演出します。朝晩の影を強調するときは少しマイナス補正に。また、クリエイティブピクチャーコントロールを使うとドラマチックに変身するシーンもたくさんあります。カメラ設定を使いこなして、自分だけの「春」を撮ってみましょう！



自転車のシルエットに桜の花びらが絡むだけで、近所の風景がドラマチックに見えました。画像補正時にクリエイティブピクチャーコントロールでレト口感をプラス。

D500・AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR・絞り優先オート (f/11・1/50秒・-0.3補正)・ISO140・クリエイティブピクチャーコントロール：トイ(適用度80)

“春っぽい”被写体は？

自分のお気に入りすべてが被写体になる「おうち写真」。春をイメージするなら、庭に咲く旬の花や、レースのカーテン越しの光と影だけでも立派な作品になります。パステルカラーや透明感のある小物、子どものおもちゃなどもおすすめ。YouTubeニコ生イメージングジャパン公式チャンネルでは、私が日常の被写体探しをご紹介します。ぜひ参考にしてみてください。



石田美菜子
作品スライドショー
～動画でわかる！
ニコ生カレッジ講師陣～

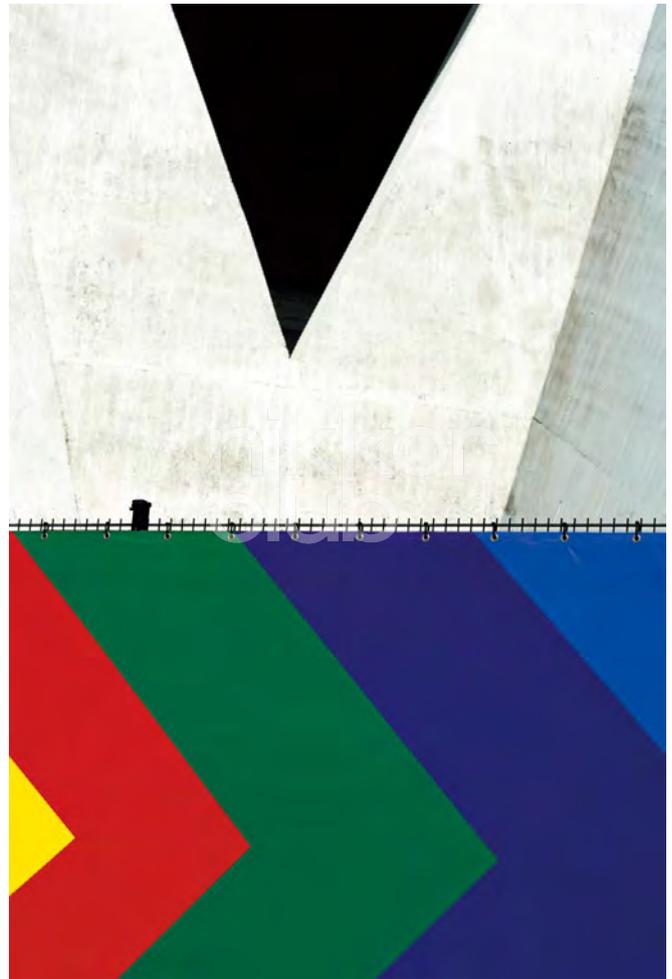
2021年2月、北海道帯広市にある真鍋庭園。
一面が真っ白い雪で覆われ、初めて履いたス
ノーシューで歩きながら撮影した。真鍋庭園
のオーナーに鴨がいると案内されて水場へ向
かったが私の興味をひいたのは一部がうっす
らと凍った水面の黒と白、そして手前の雪。
この色と形のバランスがとても魅力的で縦位
置の構図を決める。(新作)

Z 6・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・
f/6.3・1/640秒・ISO200・WBオート

佐藤倫子

creative
nikkor snap
club

3月1日(月)から3月28日(日)まで都内2カ所で
これまでの集大成ともいえる写真展を開催する佐藤倫子先生。
そこで今回は展示作品の一部を佐藤先生の解説とともにご紹介します。
「リアルなのに非現実な世界」を描き出す佐藤先生ならではの
“クリエイティブスナップ”をお楽しみください!



shadow

(左上) 2017年7月、大阪。なんでもない歩道橋だが、手すりの赤と水色が視界に入ってカメラを構えた。今までに見たことのないアングルを選ぶことができた。なんとなく、ウルトラマンカラー。夢中で撮る私の横を行き交う人たちの不思議そうな視線を感じたことを覚えている。きっと、変なアングルで撮影していからだろう。(MICHIKO2018ワタシテキ展より,2018年)

Df・AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED・f/13・1/250秒・ISO250・WBオート

(右上) 2015年5月、オランダ・アムステルダム。工事現場にあるシートに派手な広告が印刷されていた。日本ではほとんどが白なので面白かった。奥にあるのは建築中のコンクリートの建物。シャドー部分が真っ黒になるように意識し、広告の文字が入らないように構図を考えて撮影した。(CAMBO展より,2018年)

D810・AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II・f/10・1/640秒・ISO125・WBオート

(左下) この作品も2015年5月のオランダ・アムステルダム。どこかのオープンカフェ。客はほとんどいない。目についたのがきれいにペイントされた木製の椅子とセットのテーブル、そしてその影。ポイントに灰皿代わりの空き缶、緑色を入れた。(CAMBO展より,2018年)

D810・AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G・f/11・1/400秒・ISO160・WBオート



(上) 2020年12月、香川県観音寺市。いつの頃か忘れたが私は totanが好き。totanはその地の、それまで生きてきた様子をサラッと表現してくれる。そこでしか朽ちない色、錆になる。同じ素材、形に見えがちだが、全て1点もの。そして太陽の光とともに輝くそのtotanが私は好きだ。このtotanは私にはたまらないものだった。なぜかって。だって、totanに瓦屋根、日本のとても貴重な totanだから。(新作)

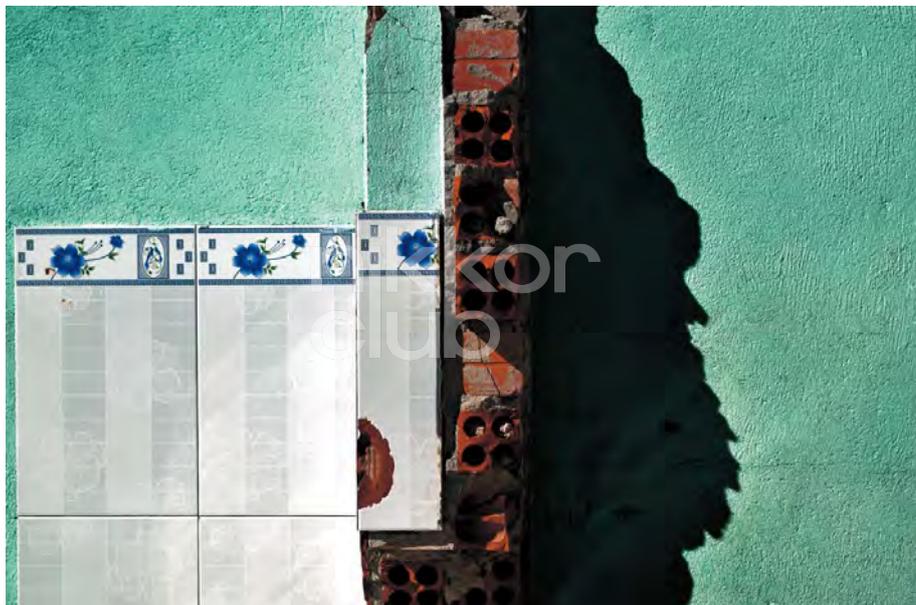
Z 6 II ・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S・f/16・1/160秒 ・ISO125・WBオート

(下) 2016年1月、ベトナム・ホーチミン。撮影のスイッチが入らずブラブラと歩き続ける。無心で歩いていた時に会ったのがこのtotan。木の葉の影がtotanにいいアクセントを作ってくれていた。無造作に歩道へ1本、植木が出されている。緑色の、1本。構図はできた。思わず、ニヤつき、撮っていた。(Vietnamese color★展より,2016年)

D800・AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR・f/11・1/250秒 ・ISO100・WBオート

totan





close up

2016年1月、ホーチミンからダナンへ向かう国道沿い。解体をしている家。多分、お風呂場。タイルの色と壁の色に魅せられて近寄る。目についたのは壊された断片。くっきりした影が面白い構図を生み出してくれた。(Vietnamese color★展より, 2016年)

D810・AF-S NIKKOR 24 -70 mm
f/2.8G ED・f/11・1/400秒・ISO160・WB
オート

大切なのは欲張らないこと

いかがでしょうか。被写体をどのように切り取るか(構図)、で写真は大きく変わります。自分の視点を作品へ表現するためのポイントは、欲張らないことです。何をどう(一番)見せたいか? あれもこれもと入れると、結果的に何を見せたい写真なのか? が伝わりにくくなってしまいます。光を、そして影を見て、皆さんもオリジナリティーある作品づくりを楽しんでください。

写真展概要

THE GINZA SPACE

2021年3月1日(月)～3月28日(日)

11:00～19:00(緊急事態宣言発令に伴い宣言が解除されるまで18:00閉館) ※3月15日休館

〒104-0061

東京都中央区銀座5-9-15 銀座清月堂ビル地下2階

TEL: 03-5537-7825

URL: <https://www.company.theginza.co.jp/space/>

吉井画廊

2021年3月1日(月)～3月22日(月)

11:00～19:00(土曜日は18:00まで。日曜祝日・休廊)

〒104-0061

東京都中央区銀座8-4-25

TEL: 03-3571-0412

URL: <https://www.galerie-yoshii.com/>

※スケジュールは変更になる場合があります。お出かけの際は事前に各ギャラリーへお問い合わせいただくことをおすすめします。



slant

2014年1月、東京・麻布。作品展へ向け写真を撮り歩いていた。ずいぶん遠くの位置から、ここを見つけた。歩きながら、そこのみを見つめる。カメラを構える前に、もう、構図はできていた。太陽も影も青空も、全てが私の味方をしてくれた。(TOKIO☆展より, 2014年)

D810・AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED・f/11・1/160秒・ISO100・WBオート

楽しく学べる!
写真教室

Nikon College

ニコン カレッジ



ニコールクラブ会員

¥1,000 割引

※割引対象外の講座もございます。
詳細はニコンカレッジWebサイトをご確認ください。

4月・5月・6月講座 3月12日(金) 申込受付開始

詳しくはニコンカレッジWebサイトをご覧ください。(3月8日(月)更新予定)
<https://www.nikon-image.com/nikoncollege/>

ニコンカレッジ

検索



ニコンカレッジは、第一線で活躍中の全国の50名を超えるプロ写真家が講師を務め、どなたでも楽しめる写真教室です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、定員を10名以下に設定。受講生の密集を防止してソーシャルディスタンスの確保に努める他、マスク着用と検温やアルコール消毒の徹底、セミナールームの換気等、各種感染防止対策を取って開講いたします。開催エリアは、これまで通り全国7地区※で、平日の日中だけではなく仕事帰りや休日に学べる講座もご用意しております。

4月・5月・6月講座より、ピックアップ!

1 自宅から「オンライン講座」に参加して 新たな表現力を身につけよう!

ニコンカレッジのオンライン講座は、“楽しく学ぶ”を目指すため、オンライン講座で一般的な一方通行のセミナー形式だけでなく、受講者と講師の双方向コミュニケーションが可能な講評会形式のオンライン講座も多数ご用意しています。オンライン講座は、他の受講生の写真も自分のパソコン画面で見られるため、通常の対面での講座以上にジックリと講評を聞くことができ、深い納得感を得られます。オンライン講座で楽しく学びましょう。

2 春～初夏の風景や街を撮りながら レベルアップを目指そう!

この季節ならではの風景や情景を撮りながら学べる、さまざまな講座をご用意しました。「美しい花を美しく撮る基本～5月のバラ編～」など、具体的に設定された講座ごとのテーマに沿って写真表現のノウハウを学べます。ニコンカレッジで2021年の充実した写真ライフを過ごしましょう。

※東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、広島、福岡で実施



Z 7・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・絞り優先オート(f/4・1/1000秒)・ISO800・WB4550K

海に見える
石垣島の公園で撮影中、

目の前に

ピピッと飛んできた
リュウキュウメジロ。
こんな小さな鳥に
素早くピントが合う
快感と感動。